

3 地域別の動向

(1) 北海道



北海道地域では、景気は持ち直しの動きに足踏みがみられる。

- ・ 鉱工業生産は弱含んでいる。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

前回からの主要変更点

	前回(令和4年11月)	今回(令和5年3月)	
景況判断	一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している	持ち直しの動きに足踏みがみられる	
鉱工業生産	持ち直しに足踏みがみられる	弱含んでいる	

1. 鉱工業生産等の動向

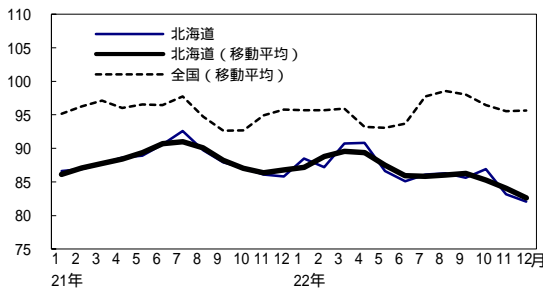
(1) 第一次産業は生乳生産、主な水産物の生産額ともに前年を下回っている。

10 - 12 月期には、生乳生産は総量では 1,039,261t と前年比 3.0% 減となった。主な水産物の生産額(主要 9 港)は、さんま等が減少したため、前年比 9.5% 減となった。

(2) 鉱工業生産は弱含んでいる。

10 - 12 月期の鉱工業生産は、食料品が減少したこと等により、前期比 2.2% 減となった。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7 - 9 月期	10 - 12 月期	10月	11月	12月
食料品	25.9	2.3	2.9	0.4	4.2	1.5
パルプ・紙	13.1	1.9	3.5	9.9	3.5	0.3
電気機械	9.1	4.3	2.4	0.3	1.6	1.3
鉄鋼	7.9	14.8	8.2	3.0	2.6	15.8
化学・石油石炭製品	7.6	7.1	11.2	28.0	19.3	3.4
鉱工業	100	1.7	2.2	1.5	4.3	1.3

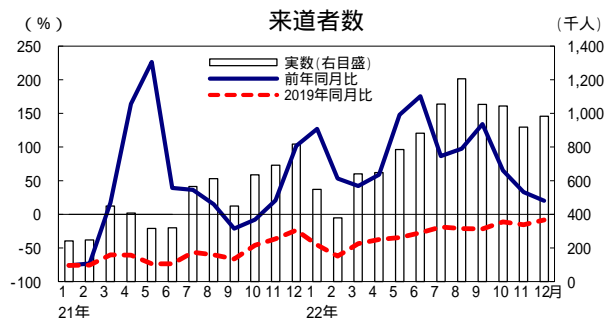
(備考) 1. 2015年=100、季節調整値、北海道の最新月は速報値。
2. 全国及び北海道の太線は中心3か月移動平均、
直近月は2か月平均。

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 10 - 12月期、12月は速報値。

(1) 北海道

(3) 観光は緩やかに持ち直している。

10 - 12 月期の来道者数は、航空機の利用者増などがあり、前年同期比 37.6% 増 (2019 年同期比 11.7% 減) となった。月別では、10 月に前年同月比 64.7% 増 (2019 年同月比 11.3% 減)、11 月は同 33.0% 増 (同 15.6% 減)、12 月は同 20.4% 増 (同 8.3% 減) となった。



(備考) 北海道観光振興機構調べ。

2. 個人消費の動向

個人消費は緩やかに持ち直している。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

10 - 12 月期は前期比 0.6% 増となった。月別にみると、10 月は前月比 0.7% 増、11 月は同 0.4% 減、12 月は同 1.0% 減となった。

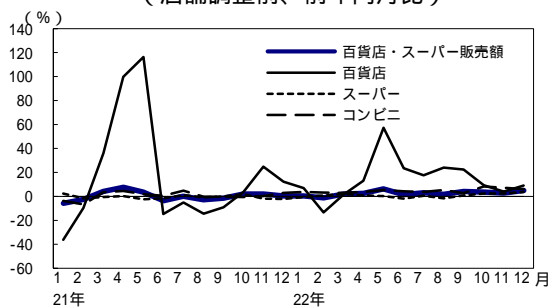
(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、10 - 12 月期は前年同期比 3.9% 増となった。月別にみると、10 月は前年同月比 3.7% 増、11 月は同 2.8% 増、12 月は同 4.9% 増となった。

百貨店は、10 - 12 月期は前年同期比 7.6% 増となった。

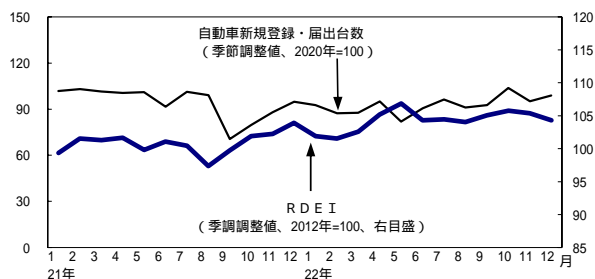
スーパーは、10 - 12 月期は同 3.1% 増となった。

百貨店・スーパー販売額等 (店舗調整前、前年同月比)



	2022年10-12月	10月	11月	12月
RDEI (消費*1)	0.6	0.7	0.4	1.0
百貨店・スーパー(*2)	3.9	3.7	2.8	4.9
百貨店(*2)	7.6	9.3	4.0	9.1
スーパー(*2)	3.1	2.6	2.5	3.9
コンビニ(*2)	7.3	8.3	7.4	6.2
乗用車(*3)	13.5	29.3	9.1	3.5
(季節調整値)(*3)	6.4	11.8	8.2	3.9

RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移



(備考) 1. 季節調整前前期(月)比 (%)

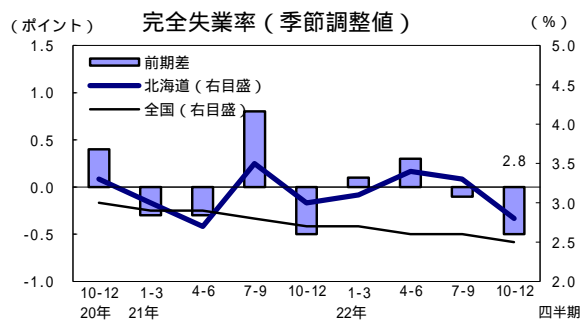
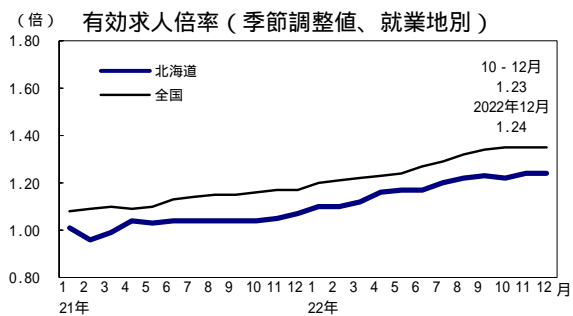
2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

3. 乗用車は、新規登録・届出台数 (上段は前年同期(月)比 (%))

3. 雇用情勢

雇用情勢は持ち直している。

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を下回っている。



(13) 景気ウォッチャー調査（令和5年1月調査）景気判断理由の概要

1. 北海道

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

分野		判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連	□	・例年1月は数字的に厳しい月であり、月末に掛けて全国的な悪天候となったことで厳しさが増している（その他専門店 [医薬品]）。
		○	・新型コロナウイルス感染症発生前の水準に比べればまだまだだが、海外からの観光客が個人、団体共に、日を追うごとに増加している（観光名所）。
		▲	・来客数及び客単価は3か月前と同水準で推移しているが、買上客数が10%以上減少している。物価高の影響により、節約志向が強まっており、買い控えが顕著にみられる（百貨店）。
	企業 動向 関連	□	・原材料価格や仕入価格の上昇について、値上げにより対応しているとの声が聞かれるようになってきた。コロナ禍での行動制限が緩和され、来道観光客が増加していることで、観光業及び関連業種の業績が引き続き持ち直し傾向にある（金融業）。
		▲	・コスト高への防衛措置として、投資と費用を抑制する動きが強まっている（通信業）。
○		・賃上げの必要性から、取引先に対して値上げ交渉を行っているが、例年よりも交渉がスムーズに進んでいる（その他サービス業 [ソフトウェア開発]）。	
雇用 関連	○	・道内各大学が2月に学内で開催する合同企業説明会において、参加を希望する企業側の意欲が前年以上に強く、新卒採用への大きな期待が感じられる。コロナ禍で苦戦していた宿泊業や旅行業にも持ち直しの動きがみられるほか、小売関連の採用意欲も高くなっている。企業と学生の動きをみる限り、景気は上向いている（学校 [大学]）。	
	□	・業種や業態によっては、新型コロナウイルス感染症が発生する前から恒常的な人手不足感があったものの、ここに来て、新卒、中途採用にかかわらず、全業種的に人材確保の厳しさが増している（求人情報誌製作会社）。	
その他の特徴 コメント			□：分譲マンションのモデルルームを来訪する客の購入意欲は依然として高い。キャンセルが出ていないかを確認するなど、完売したマンションに対する問合せもみられる（住宅販売会社）。 ▲：物価高に加えて電気料金の値上がりでかなり厳しい状況が見込まれる（美容室）。
先行き	家計 動向 関連	□	・物価の高騰、電気料金などの公共料金の値上げによる影響が懸念される。特に公共料金は節約するにも限界があることから影響が大きい。客の話を聞いていると、財布のひもがどんどん固くなっている様子がうかがえる（商店街）。
		○	・インバウンドなどの観光客を少しずつ見掛けるようになってきている。国内旅行者や出張での利用も期待できる環境になっていることから、今後の景気はやや良くなる（タクシー運転手）。
	企業 動向 関連	□	・現在ある保管在庫品について、全般的に3月末以降まで動きが期待できないことから、新規入荷品の取扱量が減少するとみられる（輸送業）。
		▲	・例年3月になると、長期保存したりんごの国内流通が始まるため、今後の出荷量の増加が期待できる（農林水産業）。 ・住宅の着工棟数が増加に転じる材料が見当たらない。金利の上昇に伴う駆け込み受注があるかもしれないが、エネルギー価格の上昇や住宅価格の高止まりなどにより、着工棟数は若干減少するとみられる（金属製品製造業）。
	雇用 関連	□	・従業員の少ない中小企業の求人意欲は旺盛だが、応募者が少なく、ばらつきもみられるため、ここしばらく大きな変化はないとみられる（求人情報誌製作会社）。
その他の特徴 コメント			▲：家電を扱っている立場からすると、これだけ電気料金が上がってくると先行きへの不安を感じる（一般小売店）。 ▲：冬場の本格的なエネルギーコストの上昇時期を迎えているなか、今春以降の更なる電力料金の値上げが発表されたことから、今後、消費者の節約ムードがますます強まることになる（スーパー）。

(D I) 現状・先行き判断D I（北海道）の推移（季節調整値）

